



特集
コーザンはいつもよいきせつ>08あき
さあ、コーザンの
秋物語のはじまり

ふおれすと鉦山の事業

リレーコラム：カマンベツに呼ばれて
星川光子（NPO法人 いぶりたすけ愛）

スタッフルーム
MJ days お茶しませんか？／ふおれほろころ／
エンドのひるね／受付嬢は見た！

KOUZAN EVENTS
この秋もイベントがいっぱい！

photo: 松原 條一

24 Nov. 2008

鉦山録
こうざんろく

登別市ネイチャーセンター「ふおれすと鉦山」ニュースレター

発行：特定非営利活動法人 登別自然活動支援組織「モモンガくらぶ」
〒059-0021 登別市鉦山町8-3 登別市ネイチャーセンターふおれすと鉦山
TEL/ 0143-85-2569 FAX/ 0143-81-5808
E-mail: kouzan@npo-momonga.org URL: <http://npo-momonga.org/>

せあ、 コーザンの秋物語のはびまり

だんだん涼しくなってきたこの季節。
植物や動物たちがこれから迎える冬に向けて着々と準備をしている。
そんな自然の中で見られるもの、聞こえるもの、香るものを探しに、ぜひ鉾山へ！！
秋の山遊び、旬な情報いろいろ教えます。

■落ち葉遊び

秋は葉っぱが雨のように降ってくる。大きな葉っぱや小さな葉っぱ、赤い葉っぱや黄色い葉っぱ、ギザギザした葉っぱやハート形の葉っぱ、丸い葉っぱや長ひょろーい葉っぱなど、色んな種類の葉っぱが地面に広がっている。なので、秋は葉っぱを使った遊びが楽しいのだ。

・落ち葉プール

葉っぱをたくさん集めてきて落ち葉プールを作っちゃおう！！
フカフカの落ち葉のベッドは寝心地サイコー！

・落ち葉のトンネル

大人の人に落ち葉を持ってもらい、その下を歩く落ち葉のトンネル。歩いている間に落ち葉が降ってきて楽しいぞお！

■紅葉の森の中

鉾山の山々の紅葉は10月10～20日がピークです。燃えるような赤だったり、温かい黄色や橙色、そしてまだ紅葉が始まらない緑・黄緑色。そんな色の調和がきれいに見られる季節なのだ。雨が少ないこの時期に、涼しい風に吹かれながら見る青空と紅葉のコントラストもまた最高！！きっと気持ちのいいハイキングができるはず。マウンテンバイクで山の中を走るのも気持ちいいぞお！

■鳥や動物たち

秋は夏を北ですごした鳥たちが南へ渡る季節でもある。旅の途中、木の実などのえさをたっぷり食べて南へ旅立つ。また、タカやワシなどの猛きん類は、上昇気流を利用して南へ渡る。猛禽類の渡りは9月中旬～10月下旬がピークです。秋は、そんな冬の準備をしている鳥たちが見られる季節でもあるのだ。また、リスやネズミなどの動物も冬ごもりの準備中。ネズミやエゾリスは、落ちている木の実を今のうちに集めて自分の巣に運んだり、自分だけの隠し場所にこっそり隠している。

また、シマリスは冬眠するので、今のうちにできるだけたくさん食べ物を食べておくのだ。だから、食べることに一生懸命なシマリスにもしかしたら会えるかも...

■森の恵み

秋といえば木の実の季節。鉾山で森の恵みを味わってみよう。甘酸っぱいやマブドウや甘あ〜いサルナシ（コクワ）など鉾山の森でとることができる。

でも、そう簡単には見つからないぞ。もし取りに行きたいときはこっそりと鉾山スタッフまで。

そのほかにも、クリやドングリなども落ちている。そんないるんな木の実を使ってクラフトなんかもできちゃうのだ。森の中で木の実や枝を取ってきて、ふおれすと鉾山の中にあるクラフトルーム（木工室）でくっつきクラフトや写真立ても作れちゃう。詳しいことは鉾山スタッフまで。

※なお、森の木の実やキノコなどは人間だけのものではなく、クマやリスやネズミたちが冬をこすためになくてはならないものです。取ってくるときはちょっとだけにしましようね。

■たき火

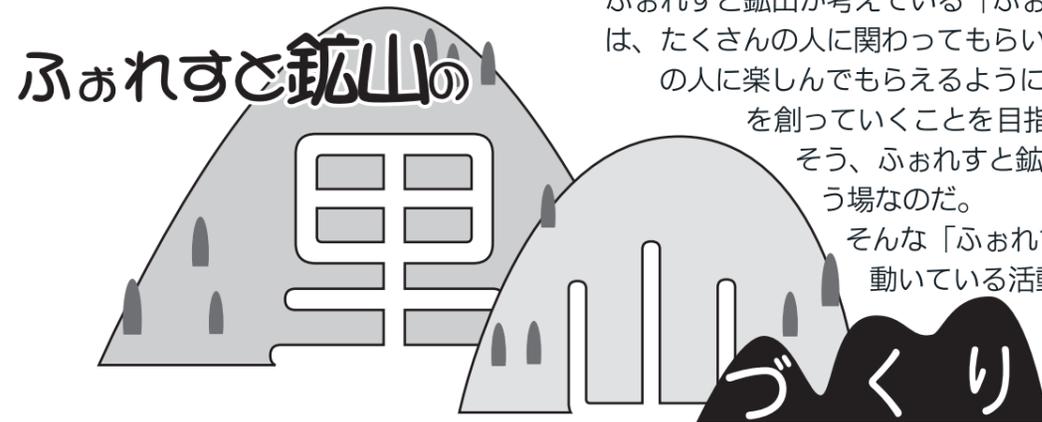
秋といえば焚き火で焼き芋。ふおれすと鉾山では、もんきーパークや炊事棟など、たき火ができる場所がいろいろあるのだ。そして、何もたき火は焼き芋だけではない。子どもたちに大人気なのが「焼きマシュマロ」。串もしくは枝にマシュマロを刺して火であぶって食べる。普通に食べるよりもフカフカで柔らかく、甘あ〜いんだなコレが。一度食べたらやめられない止まらない。



今、ふおれすと鉱山では「里山づくり」という動きが進んでいる。ふおれすと鉱山が考えている「ふおれすと鉱山流里山づくり」では、たくさんの人に関わってもらい、100年後の鉱山の森も多くの人に楽しんでもらえるように、いろんな人の手を入れて森を創っていくことを目指している。

そう、ふおれすと鉱山の森は、人と自然とが出会う場なのだ。

そんな「ふおれすと鉱山流里山づくり」で今動いている活動を紹介しよう。



1*8place プロジェクト

ふおれすと鉱山での里山づくりを進める中で、2007年の夏から室蘭工業大学と一緒に森づくりのデザインづくりを進めてきたのが「1*8placeプロジェクト（イチ・ハッチ・プレイス・プロジェクト）」なのだ。

鉱山録vol. 21のリレーコラム「カマンベツに呼ばれて」に登場した市村氏と研究室の学生たちとともに進めている。

それは、「もっと多くの人にふおれすと鉱山の森をもっと楽しく使ってもらいたい」という思いから始まったプロジェクトだ。

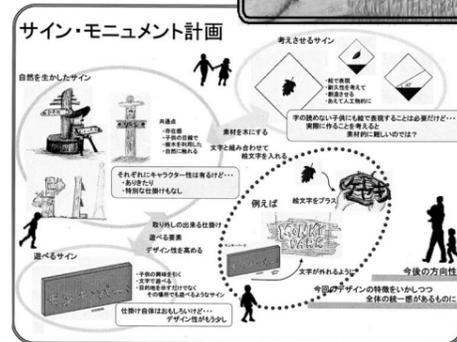
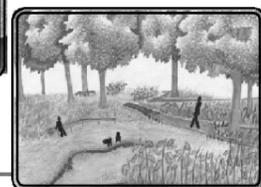
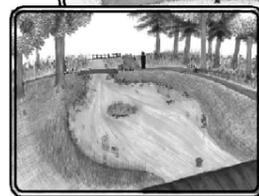
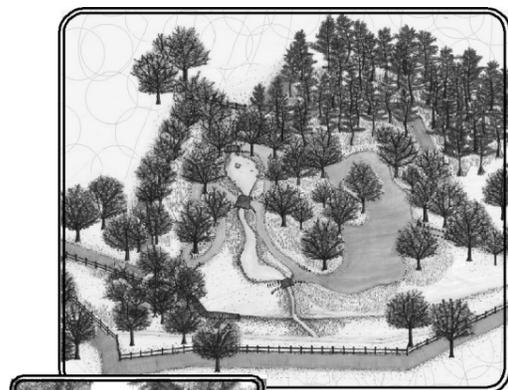
2007年度には、樹木、地形調査とサイン（看板）、モニュメント計画を作成。まず、ふおれすと鉱山の森がどんな森なのか調査が必要。そこで、樹木や地形などの環境を調べ、ふおれすと鉱山の森をもっとわかりやすく利用できるように、サイン（看板）やモニュメントを作る計画を進めた。

2008年度には、前年度の調査を基に計画地のイメージ図を作成。遊べる場、学べる場、憩いの場として活用していくことを目的に、いろいろな植物や動物や昆虫がたくさんいるような、生物多様性の森として、森への入り口のような場所を想定してデザインした。

今までのデザインはふおれすと鉱山のどこかに展示してあるぞ。発見できるかな？

今までふおれすと鉱山の森の中になかったものや場所・空間をつくり、森の中で新しい楽しみ方を発見してほしい。これからは、そんな思いでプロジェクトが進んでいく。

今のふおれすと鉱山の森にほしいもの、求めているもの、「こんなことができるようになったらいいな」、「こんな森があったらいいな」など、どんなことでもOK。いろいろなアイデア募集！！



チカタビレンジャー

ふおれすと鉱山の里山づくりを進めていくモモンガくらぶのチーム。月一回、里山体験のイベントを開催している。

6月のイベントでは植樹を行い、約100人の参加者が100本以上植樹し、その後も、7・8・9月の毎月、植樹した場所の草刈りや水やりなどの手入れを行ってきた。小さい子から大人まで、里山体験から自然を身近なものに感じてほしい。里山体験や里山づくりに興味のある人に楽しんでほしい。

そんな思いで活動しているチームなのだ。

今後は、間伐・除伐体験、炭焼き体験をイベントで開催していく予定。活動の後はみんなで昼食を囲むのもこれがまた楽しい。

興味のある人は、気軽にイベントに参加してみたいかかが？

「ふおれすと鉱山」と「いぶりたすけ愛」

平成18年11月、登別のNPOが“街づくり人づくり”を共通の課題として「のぼりべつNPO ネット」を作り連携を取り合うようになりました。それを機に「いぶりたすけ愛」にとって「ふおれすと鉱山」が身近なものとなりました。

「のぼりべつNPO ネット」の交流会をかねて昨年と今年の春、「ふおれすと鉱山」で焼肉をし、グループリビング「たすけ愛の家」の入居者も参加しました。91歳のNさんは「鉱山の焼肉がおいしかった！」と何回も何回も話していました。白老牛の焼肉を食べに行ったりもしているのですが、それよりもずっと印象に残ったようです。「お酒は飲めません」といっていた方もビールを飲んでいたのには驚きました。「麦酒飲む山の空気が味を添え」と90歳のTさんが俳句を作りましたが、まさに山の空気がおいしい！ということなのでしょう。平均年齢85歳の方々が童心に返り、手作りのログハウスにも登り、自然を満喫していました。

私はさわやか福祉財団のインストラクターをしている関係で、地元の方々の協力を得て「登別フレンズ連絡会」を立ち上げています。地域の連携とネットワークを強め地域力を高めていくことが目的です。その中で、北九州市の「もりフォーラム」のことを知り、好奇心を抑えきれない「モモンガくらぶ」の吉元さんと見学に行ってきました。

北九州市の山田緑地という広大な自然の中でおこなわれる「もりフォーラム」は認知症への正しい理解を深め高齢になっても「安心して暮らせるまちづくり」を、「もりから街へ」伝えていこうという試みです。広大な緑の中を、高齢者と高校生と一緒に散歩する姿はとても温かいものでした。

自然と共に生きる、そして、その人らしい生き方を認め合い支え合う心豊かな社会を「ふおれすと鉱山」から街へ広げたい！そんな熱い思いを抱きました。年齢差28歳の吉元さんと私、わくわくする思いを語り合いながら帰路に着きました。

赤ちゃんから高齢者まで、障がいがあってもなくても、みんなの笑顔が「ふおれすと鉱山」で見られる、そんなフォーラムを実現させたいと願っています。

「ふおれすと鉱山」を大好きなみなさん一緒にわくわくしませんか？



text：星川光子
NPO法人いぶりたすけ愛
理事長

1995年市民互助組織を仲間と立ち上げ、1998年「NPO法人いぶりたすけ愛」とする。2000年からは介護保険事業にも取り組む。たすけあい事業も在宅サービス、サロン、配食、グループリビングと多機能なサービスを展開している。

what's 森の子育てフォーラム

～地域の子育て環境づくりを、みんなの手で～

鉱山流の子育て環境づくりのお話から、全国の取組事例、子育てに限らず地域で豊かに暮らせるための今日からできる明日の一步を、参加するみなさんと探っていきます。子育てやまちづくりにご興味がある方、森の中で癒されたい方、是非お越しください。

日時：12月6日（土）10時～15時

山々は赤く色づき、木々に実をいっぱいつけ、川の流れば緩やかに…
こんな光景は何年経っても変わらないなあー。
むかし住んだところと何一つ変わらない。
鉱山地区はまたまた秋を迎えた。これからもずっと続くだろう。

人間は生きてもせいぜい100年程度、しかし、自然は変化しつつ40億年以上もいとなみ続け、そしてこれから同じだけ存在していくらしい。こんな中で人々は様々な生きている。楽しかったり、つらかったり、悲しかったり、いろいろな思いをしながら生きている。

子どもの頃の体験はとても貴重で、いい経験が出来ればそれが後々幸せにつながっていくのではないかと思います。それには自然との関わりはとても重要だと思います。優しい心を育てていくように思います。

生命の源は動物も植物もすべて同じです。生命の仕組みはとても巧妙ですが、一方もろいものです。悠久の時を経て様々な種に分化してきました。これからもその繰り返してでしょう。

これから人間がすべきことはなにか？

いや、何をしたらダメなのか？

う〜ん…

2008/10/2 MJ記

■スタッフルームへようこそ
ふおれすと鉱山スタッフのお部屋です。ここは普段スタッフが考えていること、感じたことを好きなように表現する場。鉱山で会うのとはちょっと違ったスタッフたちの横顔をお楽しみ下さい。



先日、来馬岳の中腹で、アサギマダラに出会いました。
アサギマダラは、浅葱色をした、切り絵に出てくるような、大型の蝶。蝶の中で、一番お気に入りです。9月10日の午前中に、林道わきのヨツバヒヨドリに蜜を吸っているところに遭遇しました。

どうしてアサギマダラを気に入ってしまったかというところ…
以前に強烈な出会いがあり、実はその時に一目惚れ。最初の出会いは、3年ほど前。ワシやタカなどの猛きんの渡りを観察するため、カムイヌプリの頂上(745m)に登っていたときです。そのときに、ふわり、ふわりとやってきたのが、アサギマダラだったので。陽の光に透き通る浅葱色の羽、ひらりひらりと独特の飛び方をする姿。今までに会ったことがない！

その後、続いて地球岬付近の海沿いの公園でもお会いしたのです。そして、「彼らも、渡っているんだあ！」と心が打ち震えた瞬間を今でも覚えています。

そうなのです！アサギマダラは、海を渡るのです！様々な方々の調査で、本州から南西諸島、台湾まで移動していることがわかっているとのこと。北海道でのアサギマダラの行動は、まだまだ解明されておらず、未だ謎多き蝶なのです。

そして、会いたい、会いたいと募る想いが届いたのか…

この秋、9月15日にカムイヌプリの頂上にいったときにも、ひらりと登場してくれました！

アサギマダラの翅を広げた大きさは9cmくらい。この小さな体に、どれだけのチカラが秘められているのだろう…といった、どこまで飛んでいくんだろう！と夢が広がります。

そんな感じで…、この秋には、アサギマダラが熱い！という日々が続いています。

#4 アサギマダラ text: 遠藤潤

MJ days

えんめぐのもの想うコラム

お茶

お茶のひるね

ふおれすと鉱山ボランティアのコラム ④

受付嬢の絵ごころ

カウンターのうらがわ

ふおれららら

花旅だ！「実践登山教室」

text: 伊藤 義治

今年も「猛きん類の渡り鳥調査会」がやってくる。

2003年9月24日カムイヌプリ山頂で行われた第一回目の調査会に偶然参加しました。約2時間かけ山頂へ、登別市の海岸線から駒ヶ岳、そして羊蹄山を見渡す絶景に絶命近いクマタカなど、約十数種の猛きん類が地球岬を目印に函館を径由し本州方面へ渡る姿に感激しました。

この感激が、ふおれすと鉱山と私の係わり合いになった接点なのです。

この出会いから、自然体験活動プログラムのサポートが始まった。

「ハイキング」、「キャンプ」「川遊び」「沢登り」「歩くスキー」「カンジキ散歩」、そして2006年5月に立ち上げた「実践登山教室」を担当して、早3年目を迎えます。

楽しみ方いろいろ・・・、のんびり歩きます・・・、花や景色を楽しみます・・・をキャッチフレーズに10名の会員制、5回シリーズでしかもウィークデーの日帰り登山となっている。唯一、鉱山町外での活動である。

雄大な景色の中で小さな花との会話、のんびりと時間を過ごす一日は、参加者の年代を問わず心が豊かになります。多くの参加者をこの時間に誘い込む為、鉱山町まで通い続けているのです。



Illustrated by けんこ (児玉 顕子: 受付スタッフ)

10月	〔1日、8日、15日、22日、29日〕 森ちょこっひろば	〔19日〕 秋の登山会
	〔4日、5日〕 KoNG養成講座※	〔19日〕 秋の野点
	〔5日〕 秋のハイキング	〔23日〕 KoNGステップアップ研修※
	〔9日〕 たまにはアウトドアライフ	〔25日〕 ながぐつレンジャー
	〔16日、28日〕 鉱山ショート・ショート	〔25日〕 鉱山流里山づくり（苗木づくりの日）
	〔18日〕 森の子くらぶ	〔25日、26日〕 森からつながる環境保全講座
	〔18日-19日〕 子ども自然博士講座	〔29日〕 森のサロン
	〔19日、26日〕 森のようちえん	

※KoNGとは、コーザン・ネイチャーガイドの略称です。

11月	〔5日、12日、19日、26日〕 森ちょこっひろば	〔16日〕 シカの角アクセサリ作り（ひげ工房）
	〔7日、26日〕 鉱山ショート・ショート	〔20日〕 森のサロン
	〔8日、9日〕 ボランティア講座（表現力アップ）	〔22日〕 ながぐつレンジャー
	〔9日〕 第5期KoNGガイド演習	〔24日〕 KoNGステップアップ研修
	〔13日〕 たまにはアウトドアライフ	〔29日〕 鉱山流里山づくり（木を伐るの日）
	〔15日〕 森の子くらぶ	〔30日〕 利用者懇話会（一般編）
	〔16日、23日〕 森のようちえん	〔30日〕 森からつながる環境保全講座

12月	〔3日-6日〕 通学合宿	〔14日、21日〕 森のようちえん
	〔5日〕 森のサロン	〔17日〕 KoNGステップアップ研修会
	〔6日〕 子育てフォーラム	〔20日〕 ながぐつレンジャー
	〔6日、7日〕 森からつながる環境保全講座	〔21日〕 自然素材を使った椅子づくり（ひげ工房）
	〔11日〕 たまにはアウトドアライフ	〔27日〕 鉱山流里山づくり（まき割りの日）
	〔13日〕 森の子くらぶ	

最新情報はこちら！ → <http://npo-momonga.org/>

■ KOUZAN INFORMATION

ふおれすと鉱山ご利用のご案内

開館9:00～17:30 入館料・無料

休館日：毎週月曜日

（月曜日が祝日の場合はその翌日が休館となります）

- ・木工室・森の図書室はご自由に使っていただけます。
そのほかに双眼鏡、歩くスキー、マウンテンバイク、調理台などをご利用いただけます。
- ・ふおれすと鉱山は、宿泊型体験施設です。宿泊を希望される方は、下記連絡先へお問い合わせください。
- ・森のおうち、森トンハウス、ツリーハウス(かぜのいえ)のご利用も可能です。その他ご不明な点は、下記連絡先へ。



鉱山録

EDITOR'S LOUNGE

最近暗くなるのがめっきり早くなり、夏の間はまだ明るかった5時6時も今ではもう真っ暗です。でも、暗くなってから現れる動物もいるんですよ。「チツチツチツチ...」と鳴きながら暗闇を飛んでいくのが“ヤマコウモリ”という名のコウモリです。意外と近くで飛んでいる彼ら。夜の鉱山に来ると、もしかしたら会えるかも。(は)

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」 Vol.24

発行：2008年11月

発行所：〒059-0021 北海道登別市鉱山町8-3

電話番号：0143-85-2569 FAX: 0143-81-5808

E-Mail：kouzan@npo-momonga.org

URL：http://npo-momonga.org/